



夢が育つ夏休みに

校長 小林 理人

本校では、四季折々の年中行事を子供たちと一緒に楽しむことを大切にしています。7月は、地域の方のご厚意でいただいた笹に、飾り物と子供たちの願いを書いた短冊を取り付けて七夕飾りを作りました。子供たちが書いた短冊には

「ケーキやさんになりたい」「サッカーをがんばりたい」「大好きなゲームがほしい」など憧れていることや、がんばっていること、ほしいものなどが素直な言葉で書かれていました。

そして、高学年の子供たちが書いた短冊の中には

「パティシエになっておいしいお菓子をつくりみんなを笑顔にしたい」

「サッカー選手になって活躍し、見ている人たちに喜んでもらいたい」

など、自分が得意なことや好きなことを活かして何がしたいかなど、将来の夢を具体的に書いたものもありました。子供たちが書いた短冊を読みながら、短冊に書かれたこととその子の成長が重なり、何とも言えない幸せな気持ちになりました。

そして、1学期最後の週となった今週の火曜日、七夕飾りの「お焚き上げ」をしました。集まった子供たちは、短冊に書いた夢や希望が叶うことを願いながら、立ち上る煙を笑顔で眺めていました。



夢を育てる二松クラブ

国立二小の夏休みは、二松クラブや校庭で行われる地域の盆踊りなど、普段の学校生活とは違った喜びや感動を味わう機会がたくさんあります。6月に実施した道徳授業地区公開講座では、高学年の子供たちが二松クラブの開設に関わった当時の校長先生から、16年続く二松クラブの歴史や願いなどについての話を聞きました。話の内容は以下のようなものでした。

「私（校長先生）が子供の頃の話です。私は、当時通っていた小学校で開かれた夏休みの学習教室に参加し、立体地図を作りました。それがとても楽しくて地図に興味を持ちました。その後、社会科の勉強が好きになり、その楽しさを子供たちに伝えるために学校の教員になりました。

二小の校長になった時に、自分が経験をしたような普段の授業ではできない楽しい体験を二小の子供たちにも経験させてあげたいと思いました。そして、当時の先生方や地域の皆さんに相談をすると、地域にも素晴らしい技術や知識を子供たちのために活かしたいと思っている人がたくさんいることが分かりました。その人たちと協力して二松クラブを始めました」

当時の校長先生は、小学校の時に自分が作った立体地図を、この日のために秋田県のご実家から持ってきてくださいました。子供たちは、校長先生の想いがこもったその作品をじっと見つめながら真剣に話を聞いていました。

二松クラブは16年経った現在も子供たちの夢を育てる貴重な機会となっています。二松クラブの開設や、その後の継続に関わってくだだった保護者や地域の皆様の子供たちを想う心が、しっかりとつながっていることを、みんなで確かめ合う意見交換会になりました。

1学期が終わりました。子供たちは自分の考えを伝える力や、目標に向けて努力をする力、仲間と共に楽しく過ごす力などを身に付け大きく成長しました。1学期に身に付けた力や個々の成長をあゆみに記し、子供たちに渡しました。保護者の皆様には、持ち帰ったあゆみを活用し、子供たちのがんばりや成長を認め、励まし、大きな夢につながる温かい声かけをお願いいたします。

そして、夏休みには、学校ではできない楽しい経験をたくさんして、子供たちの夢や2学期への期待が大きく膨らむことを期待しています。皆様の学校へのご支援、ご協力に心から感謝いたします。